1.はじめに

CBM-20A/-20Alite, SPD-M20A 使用で、Ethernet 接続されている場合のみ、設定が必要になります。

WindowsXP SP2 をインストールされますと、LCsolution において、環境設定で、Ethernet 接続されている CBM-20A/-20Alite, SPD-M20A のネットワーク装置一覧を表示した際、次の警告画面が出ます。 (現在は、装置一覧が出ますが、今後出ないことが予想されます。)



管理者権限の場合

制限ユーザーの場合

これらの問題を解決する手順を、以下にご説明いたします。

- PCのファイアウォールの設定を無効にする PCが置かれた職場のLANがすでにファイアウォールに守られている場合に、個々のPCのWindowsXPフ ァイアウォール機能を無効にする場合です
- 2. PCのファイアウォールの設定は有効にしながら例外の設定を行う セキュリティを高めるために、PCのWindowsXPファイアウォール機能を有効にしながら、サービスを行 うプログラムごとに設定を行う場合です。

2.ファイアウォールを設定しない場合

企業でご使用される場合、ほとんどの企業では、すでにファイアウォールが構築されているはずです。 こういう場面においては、基本的にWindowsファイアウォールを設定する必要はないものと考えます (Windowsファイアウォールは個人がルータなしで直接インターネット接続した場合の攻撃を防ぐた めのものであり、ルータが存在する場合は、ルータでファイアウォールを設定し、個々のPCでファイ アウォールを設定する必要はありません)。

そこで、ファイアウォールの設定を無効にし、WindowsXP SP2 による動作不良を回避します。以下 は、その手順です。

【ファイアウォールの設定を無効にする方法】

1) Administrator で Windows にログオンする。

2) スタートメニューから [設定] → [コントロールパネル] と操作し、コントロールパネルを表示させる。

3) Windows ファイアウォールを開く。

(LUNA モードのときは、コントロールパネルをクラシック表示に切り替えてから Windows ファイア ウォールを開いてください)

4) [全般]タブで「無効」のラジオボタンを選択し、[OK] ボタンを押す。



3.ファイアウォールを設定する場合

Windows ファイアウォールをご使用される場合は、WindowsXP のファイアウォールを設定するとと もに、サービスを提供するプログラムごとに設定を行う必要があります。なお、Windows が提供する ネットワークサービス機能(ファイル共有など)については、そのサービスを設定した時点で必要な設 定を行いますので、標準的な機能については設定の必要性はありません。

1) Administrator で Windows にログオンする。

2) スタートメニューから [設定] → [コントロールパネル] と操作し、コントロールパネルを表示させる。

3) Windows ファイアウォールを開く。

(LUNA モードのときは、コントロールパネルをクラシック表示に切り替えてら Windows ファイアウォールを開いてください)

4) [全般]タブで「有効」のラジオボタンを選択し、「例外を許可しない」のチェックを外します。



5) [例外] タブで、プログラム及びサービスに"RealtimeAnalysis"があるか確認します。あれば チェックを入れた状態で[OK] ボタンを押し、Windows ファイアウォールを閉じます。

😸 Windows ファイアウォール 🛛 🗙
全般例外詳細設定
入力方向のネットワーク接続は、下で選択されたフログラムおよびサービスのためのものを除き、 Windows ファイアウォールでブロックされています。例外として追加することにより、プログラムによって は動作がよくなる場合もありますが、セキュリティの危険が増加する可能性があります。
プログラムおよびサービス(P):
名前
🔽 File Transfer Program
Trojecti.exe
▼ SQLServer
UPnP フレームワーク
☑ winvnc4.exe
■ ファイルとプリンタの共有
■リモート アシスタンス
プログラムの追加(R)) ポートの追加(Q)) 編集(E) 削除(Q)
✓ Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する(N)
例外を許可することの危険の詳細を表示します。
OK キャンセル

無ければ、以下の設定を行います。

6)[プログラムの追加]ボタンを押し、[参照]ボタンを押し、

C:¥LabSolutions¥LCsolution¥Program¥LCAnalysis.Exe を追加します。 (C:¥は、インストールしたドライブなどにより変わります)

プログラムの追加 🛛 🔀
例外一覧(こ追加してプログラムとの通信を許可するには、プログラムを選択するか、一覧表 示されていないものについては [参照] をクリックして検索してください プログラム(P):
 ④ GCMSsolution 自動登録 ④ GCMSsolution 手動登録 ④ GCsolution 自動登録 ④ GCsolution 手動登録 ● HP コンフュグレーション エディタ ● Internet Explorer ● IRsolution ④ IRsolution ● IRsolution ● Insolution 自動登録 ● Mage Action
パス: C:¥LabSolutions¥LCsolution¥Program¥LCAnalysis.[参照(B) スコーブの変更(C) OK キャンセル

7) "LCAnalysis.Exe"にチェックを入れた状態で、[OK]ボタンを押し、Windows ファイア ウォールを閉じます。

🎽 Windows ファイアウォール 🛛 🛛
全般例外詳細設定
入力方向のネットワーク接続は、下で選択されたプログラムおよびサービスのためのものを除き、 Windows ファイアウォールでブロックされています。例外として追加することにより、プログラムによって は動作がよくなる場合もありますが、セキュリティの危険が増加する可能性があります。
プログラムおよびサービス(P):
名前
☑ File Transfer Program
✓ LCAnalysis.Exe
I SQLServer
ロ UPnP フレームワーク
I winvnc4.exe
■ ファイルとブリンタの共有 ==
プログラムの追加(P) ポートの追加(Q) 編集(E) 削除(D)
✓ Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する(N)
例外を許可することの危険の詳細を表示します。
OK キャンセル

以上。